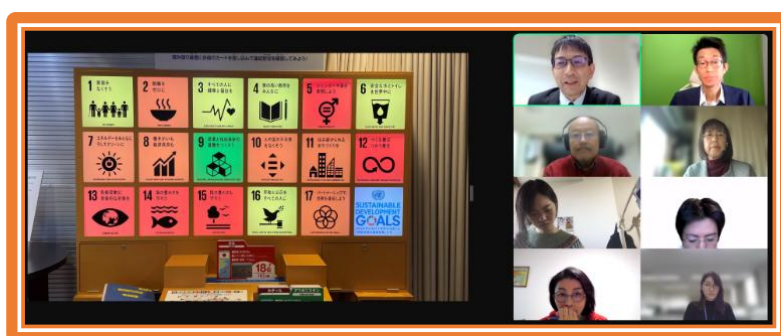


JICA 九州主催 2024 年度 学校教育/教員向けセミナー 開発教育指導者研修 報告書



〈目 次〉

[illegible]

＜研修概要＞

2024 年度の研修テーマとして「ジブンゴト化」を取り入れた。

その背景には、学校教員へのアンケートやヒアリングで、開発教育/国際理解教育において児童・生徒が世界の出来事や課題を「ジブンゴト」として捉えにくい、このため生徒が主体的に関わるためにどのように伝えればよいか悩むという声が多く寄せられたことにある。

そこで、第 1 回「教員編」、第 2 回「生徒編」、第 3 回「理論と実践編」、第 4 回「学び合い編」と、児童・生徒が世界の課題に主体的に取り組めるよう「ジブンゴト化」を異なる視点から構成し、それぞれの立場やフィールドで開発教育/国際理解教育を実践している講師を招いて研修を実施した。

参加教員が自らの役割を考え、開発教育/国際理解教育の推進者として、学校現場で主体的に関わり促していくことを目標に、全 4 回の研修を実施した。

【目 的】

- ①開発教育/国際理解教育の取り組みの拡充
- ②参加教員同士の横のつながり（ネットワーク）の構築
- ③持続的な学び合いと授業実践の継続を可能にするための情報共有の促進

【実施方法】

第 1 回：JICA 九州センターでの対面と Zoom オンラインでのハイブリッド形式

第 2 回：Zoom オンライン

第 3 回：Zoom オンライン

第 4 回：JICA 九州センターでの対面

【参加対象】

九州各県の小・中・高等学校または特別支援学校の教員、その他教育関係者

＜実施一覧＞

2024年度の年間テーマを「ジブンゴト化」とし、以下の研修を実施した。

回数	日時	時間	研修テーマ	講師名 (敬称略)	受講者数
1	2024年8月23日 (金)	13:00～15:30 (2時間半)	ジブンゴト化 教員編	一ノ瀬 めぐみ 田渕 陽平	23
2	2024年11月30日 (土)	10:00～11:30 (1時間30分)	ジブンゴト化 生徒編	鹿児島立曽於高校 高校生・教員	7
3	2024年12月7日 (土)	10:00～12:30 (2時間半)	ジブンゴト化 理論と実践編	佐藤 秀樹	8
4	2025年1月26日 (日)	9:00～13:00 (4時間)	ジブンゴト化 学び合い編	伊沢 令子	20
				合計	58

＜第1回研修＞

【テーマ】「ジブンゴト化 教員編」

【日 時】2024年8月23日（金）13:00～15:30（2時間半）

【方 法】JICA九州センターでの対面とZoomオンラインでのハイブリッド形式

【講 師】田渕 陽平 先生（北九州市立筒井小学校）

JICA 海外協力隊（マダガスカル・青少年活動）

一ノ瀬 めぐみ 先生（私立長崎精道小学校）

2023年度教師海外研修（ベトナム）・2022年度教師国内研修参加者

【チラシ】

JICA九州主催
学校教育/教員向けセミナー 第1回/年4回開催
(開発教育指導者研修)
テーマ: **ジブンゴト化**

2024年
8/23 (金) 13:00～15:00
※対面参加者は、15:30まで交流予定

JICA九州センターでの対面と
Zoomオンラインでのハイブリット形式

講師
私立長崎精道小学校
一ノ瀬 めぐみ 先生
2023年度教師海外研修
ベトナム研修参加者

北九州市立筒井小学校
田渕 陽平 先生
JICA海外協力隊
マダガスカル派遣

■研修スケジュール (予定)
12:30～
JICA九州 対面参加者 受付開始
12:50～
Zoomオンライン参加者 入室開始
13:00～13:05
開会挨拶・開会趣意説明
13:05～13:55 (約50分)
田渕陽平先生: 開発教育/国際理解教育の概要と学校現場での実践
13:55～14:35 (約40分)
一ノ瀬めぐみ先生: 教員国内研修・海外研修(ベトナム)参加後の経験を取り入れた授業実例
14:35～14:55 (約20分)
2024年度 教師海外研修 モンゴル研修参加教員: モンゴル研修体験発表
14:55～15:00
アナウンス・閉会挨拶
15:00～15:30
(知面参加者のみ) グループディスカッション・交流会
※スケジュールの内容や機間は変更する場合があります。

■申込フォーム
<https://forms.office.com/r/ew0VmpJrC>
[今回申し込みされるプログラムをお選びください] の項目で、
「(6) 学校教育/教員向け研修・セミナー (開発教育指導者研修)」を選択してください。

■問合せ先
特定非営利活動法人 九州海外協力協会 (委託先) 学校教育/教員向けセミナー (開発教育指導者研修) 担当
email: leadership@npo-kyushu.or.jp Tel: 092-710-5310

【目 的】

学校現場での開発教育/国際理解教育の実践を知り、児童・生徒に「ジブンゴト化」を促す授業のアイデアや手法を学ぶ。

【概 要】

田渕陽平先生と一ノ瀬めぐみ先生を講師に迎え、学校現場で児童・生徒の主体性を育む開発教育/国際理解教育のアイデアや手法を学ぶ研修を実施した。

田渕先生は、開発教育/国際理解教育の基本的な概念について説明し、JICA 海外協力隊での経験や、学校で取り組んでいる具体的な実践例を紹介した。国際的な視点を取り入れた授

業の工夫や、生徒の主体的な行動を引き出す方法について、具体的なエピソードを交えながら話した。

一ノ瀬先生は、JICA の教師国内研修やベトナムでの教師海外研修で得た学びを基にした授業実践を紹介した。異文化理解の視点を取り入れた授業で、生徒の視野が広がり、世界に目を向けるようになった変化について話した。また、JICA が提供する開発教育支援事業の教材や研修を効果的に活用する方法も共有された。

さらに、2024 年度教師海外研修（モンゴル）に参加した大町淳先生（長崎県立島原工業高等学校）から、モンゴルでの研修体験談も発表された。帰国直後の新鮮な体験を交えた報告は、異文化を学ぶ意義を改めて感じさせる内容だった。

参加者は、現職教員同士が抱える悩みや実践例を共有し、学校現場での課題解決に向けた新たな視点や具体的な手法を得ることができた。国際理解教育をより身近なものにし、児童・生徒が主体的に関わる学びを実現するためのヒントが詰まった研修となった。

【参加者満足度】（13 名が回答）

5 とても良かった（満足）～ 1 とても悪かった（不満足）

5 とても良かった（満足）	8
4	4
3	1
2	0
1 とても悪かった（不満足）	0

【参加者感想】

- ・今回の研修に参加して、国際理解教育を「ジブンゴト」として捉える大切さを改めて実感しました。実際に海外研修へ行かれた先生方のお話を聞くと、知らない世界が一気に身近になるようで、視野が広がったと感じています。
- ・具体的な授業実践例を教えていただいたので、すぐに自分の授業に取り入れられそうだとワクワクしました。JICA の教材や課題解決学習など、活用できるツールがたくさんあると知り、これからの授業づくりに活かしていきたいです。
- ・海外での体験談やユニークなエピソードを直接聞けたことが、一番印象に残りました。特にモンゴルの話など、自分が全く知らなかった歴史に触れることで、子どもたちにも新しい視点を提供できるのではないかと思います。
- ・オンラインで参加したのですが、質問もしやすくて良かったです。ただ、できれば先生方と直接お話しできる機会があるとさらに学びが深まると思いました。小人数でのグループセッションがあれば、もっと交流の幅が広がりそうです。
- ・時間の設定がちょうど良く、写真や資料も分かりやすかったので、飽きずに集中して学ぶことができました。短い時間でもこれだけ多くの先生方の話が聞けるのはありがたく、仕事

へのモチベーションも高まりました。

【研修の様子】



＜第2回研修＞

【テーマ】「ジブンゴト化 生徒編」

【日 時】2024年11月30日（土）10:00～11:30（1時間30分）

【方 法】Zoom オンライン

【講 師】鹿児島立曽於高校の高校生・教員（SDGs QUEST みらい甲子園 2023 年度鹿児島県大会アクションアイデア最優秀賞受賞校）

【チラシ】

JICA九州主催 2024年度

学校教育/教員向けセミナー
(開発教育指導者研修)

2週連続
オンライン
開催
参加無料

テーマ：**ジブンゴト化**

①ジブンゴト化 生徒編
SDGs QUESTみらい甲子園受賞高校の事例から
生徒主体の「ジブンゴト化」のアイデアやヒントを学ぼう！

11/30(土)10:00～11:30
鹿児島県立曽於高校
SDGs QUESTみらい甲子園2023年度
鹿児島県大会アクションアイデア最優秀賞受賞

②ジブンゴト化 理論と実践編
開発教育/国際理解教育やSDGs教育における「ジブンゴト化」
の理論と実践を学ぼう！

12/7(土)10:00～12:00
佐藤 秀樹氏
多文化教育サポート副代表
東京学芸大学教育学部講師
JICA地球ひろば案内人、日本国際教育学会理事を経験

・学校教員以外にも、生徒や学生、教育関係者の皆さまにもご参加いただけます。
・単発での参加も歓迎いたします。
・グループディスカッションの際には、可能な限りカメラをオンにしてご参加いただけますよう、ご協力をお願いいたします。

11/30 (土) ジブンゴト化 生徒編

■研修の目的
SDGs QUESTみらい甲子園受賞校の事例を通して生徒の主体的行動と教師の働きかけから「ジブンゴト化」のアイデアやヒントを学ぶ
©SDGs QUESTみらい甲子園公式サイト <https://sdgs.ac/>

■研修スケジュール (予定)

09:50- 参加者Zoom入室開始
10:00-10:10 開会挨拶・開催趣旨説明 (10分)
10:10-11:00 SDGs Quest みらい甲子園2023年度受賞校 取り組み発表
鹿児島県大会アクションアイデア最優秀賞 鹿児島県立曽於高等学校
生徒や教員による取り組み紹介・質疑応答 (約50分)
11:00-11:25 参加者同士によるグループディスカッション (約25分)
11:25-11:30 アナウンス・閉会挨拶

12/7 (土) ジブンゴト化 理論と実践編

■研修の目的
開発教育/国際理解教育やSDGs教育における
「ジブンゴト化」の理論と実践を学ぶ

■研修スケジュール (予定)

09:50- 参加者Zoom入室開始
10:00-10:05 開会挨拶・開催趣旨説明 (5分)
10:05-11:35 講師によるプレゼンテーションと質疑応答 (約90分)
11:30-11:55 参加者同士によるグループディスカッション (約20分)
11:55-12:00 アナウンス・閉会挨拶
※予定は変更する場合があります

■申込フォーム
下記申込サイトもしくは右のQRコードからお申込みください。
<https://forms.office.com/r/ew0lvmpoJrC>
「今回申し込まれるプログラムをお選びください」の項目で、
「(6) 学校教育/教員向け研修・セミナー (開発教育指導者研修)」
を選択してください。

■問合せ先
特定非営利活動法人 九州海外協力協会 (委託先)
学校教育/教員向けセミナー (開発教育指導者研修) 担当
Email: leadership@npo-kyushu.or.jp Tel: 092-710-5310

【目 的】

SDGs QUEST みらい甲子園受賞高校の事例から生徒主体の「ジブンゴト化」のアイデアやヒントを学ぶ。

【概 要】

2023 年度 SDGs QUEST みらい甲子園鹿児島県大会で最優秀賞を受賞した鹿児島県立曾於高校の高校生と教員を講師に迎え、生徒主体の「ジブンゴト化」を学ぶ研修を実施した。

高校生は、受賞プレゼンテーション「焼酎かすから広がる未来～サステイナブル社会を目指して僕たち高校生にもできること～」を発表した。これは、焼酎製造過程で発生する産業廃棄物「焼酎かす」を未来の資源として活用する探究活動であり、クリーンな海の実現や CO2 削減、廃棄物の減少、安全性の高い車の製造など、サステイナブルな社会を目指す取り組みである。

また、高校生がこの探究活動に取り組むきっかけや行動の背景を語り、理科の担当教員からは、生徒の「ジブンゴト化」を促す声掛けやモチベーション維持の取組みが紹介された。

参加者は、児童・生徒が積極的に社会課題に取り組めるよう支援し、生徒の主体性を尊重し、共に課題に取り組む教員の姿勢を学ぶ機会となった。

【参加者満足度】（2 名が回答）

5 とても良かった（満足）～ 1 とても悪かった（不満足）

5 とても良かった（満足）	1
4	1
3	0
2	0
1 とても悪かった（不満足）	0

【参加者感想】

・生徒と担当教師の話を直接聞いたことで、実践の具体的な様子や生徒の意見を知ることができ、大変参考になりました。

・開発教育においては、間接的な関わり方でも学びが深まることを知り、取り組みの幅が広がると感じました。また、外部とのつながりや地域との関係づくりの重要性を再認識し、今後の活動に活かしていきたいと思います。

【研修の様子】

4. 「SDGsアクション」が広がるとどう変わるのか



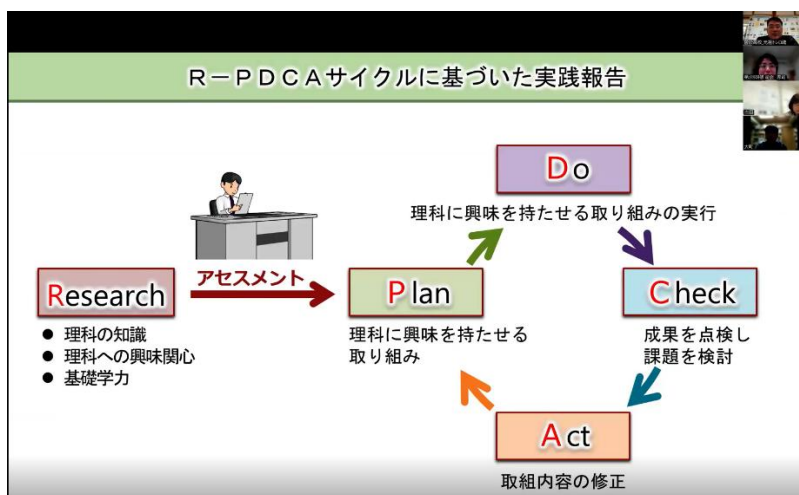
14 海の豊かさを守ろう 	・焼酎かす由来のプラスチック素材誕生により、クリーンな海へ ・プラスチックゴミの更なる削減へ ・未来型プラスチック製品の誕生、廃棄が簡単♪
15 陸の豊かさも守ろう 	・焼酎かす由来のプラスチックは、微生物が分解するため、ゴミの量を減少させることにつながる。 ・資源ゴミが減少し、CO2削減へとつながる☆
7 安全なエネルギーをみんなに 	・セルロースナノファイバーから車の素材へ。強度upで安全↑↑ ・焼酎かすは、電池の作成・バイオエタノール化・エネルギー資源へと変換できる可能性を多く秘めている。

↓ **サステナブル社会へ**

目標 14：未来型プラスチックの誕生で、広がる可能性

目標 15：微生物によるゴミの分解促進により、CO2削減へ

目標 7：セルロースナノファイバーで強度の強い車の誕生&事故減少



<第3回研修>

【テーマ】「ジブンゴト化 理論と実践編」

【日 時】2024年12月7日(土) 10:00～12:00 (2時間)

【方 法】Zoom オンライン

【講 師】佐藤 秀樹氏 (多文化教育サポート副代表、東京学芸大学教育学部講師
JICA 地球ひろば案内人、日本国際教育学会元理事)

【チラシ】

JICA九州主催 2024年度

学校教育/教員向けセミナー
(開発教育指導者研修)

2週連続
オンライン
開催
参加無料

テーマ：**ジブンゴト化**

①**ジブンゴト化 生徒編**
SDGs QUESTみらい甲子園受賞高校の事例から
生徒主体の「ジブンゴト化」のアイデアやヒントを学ぼう！

11/30(土)10:00～11:30
鹿児島県立曽於高校
SDGs QUESTみらい甲子園2023年度
鹿児島県大会アクションアイデア最優秀賞受賞

②**ジブンゴト化 理論と実践編**
開発教育/国際理解教育やSDGs教育における「ジブンゴト化」
の理論と実践を学ぼう！

12/7(土)10:00～12:00
佐藤 秀樹氏
多文化教育サポート副代表
東京学芸大学教育学部講師
JICA地球ひろば案内人、日本国際教育学会理事を経験

- ・学校教員以外にも、生徒や学生、教育関係者の皆さまにもご参加いただけます。
- ・単発でのご参加も歓迎いたします。
- ・グループディスカッションの際には、可能な限りカメラをオンにしてご参加いただけますよう、ご協力をお願いいたします。

11/30(土) ジブンゴト化 生徒編

■研修の目的
SDGs QUESTみらい甲子園受賞校の事例を通して生徒の主体的行動と教師の働きかけから「ジブンゴト化」のアイデアやヒントを学ぶ
©SDGs QUESTみらい甲子園公式サイト <https://sdgs.ac/>

■研修スケジュール(予定)
09:50- 参加者Zoom入室開始
10:00-10:10 開会挨拶・開催趣旨説明(10分)
10:10-11:00 SDGs Quest みらい甲子園2023年度受賞校 取り組み発表
鹿児島県大会アクションアイデア最優秀賞 鹿児島県立曽於高等学校
生徒や教員による取り組み紹介・質疑応答(約50分)
11:00-11:25 参加者同士によるグループディスカッション(約25分)
11:25-11:30 アナウンス・閉会挨拶

12/7(土) ジブンゴト化 理論と実践編

■研修の目的
開発教育/国際理解教育やSDGs教育等における
「ジブンゴト化」の理論と実践を学ぶ

■研修スケジュール(予定)
09:50- 参加者Zoom入室開始
10:00-10:05 開会挨拶・開催趣旨説明(5分)
10:05-11:35 講師によるプレゼンテーションと質疑応答(約90分)
11:30-11:55 参加者同士によるグループディスカッション(約20分)
11:55-12:00 アナウンス・閉会挨拶
※予定は変更する場合があります

■申込フォーム
下記申込サイトもしくは右のQRコードからお申込みください。
<https://forms.office.com/r/ew0IVmq-jrC>
「今回申し込まれるプログラムをお選びください。」の項目で、
「(6) 学校教育/教員向け研修・セミナー(開発教育指導者研修)」
を選択してください。

■問合せ先
特定非営利活動法人九州海外協力協会(委託先)
学校教育/教員向けセミナー(開発教育指導者研修)担当
Email: leadership@npo-kyushu.or.jp Tel: 092-710-5310

【目 的】

開発教育/国際理解教育やSDGs教育等における「ジブンゴト化」の理論と実践を学ぶ。

【概 要】

佐藤秀樹氏（多文化教育サポート副代表、JICA 地球ひろば案内人）を講師に迎え、「ジブンゴト化」の理論と実践を学ぶ内容で、以下の3つの構成で研修を実施した。

まず、「ジブンゴト化 理論編」では、VUCA時代（変動性・不確実性・複雑性・曖昧性の高い時代）に求められる当事者意識を育む重要性が強調された。学習者自身が主体性を持ち、問いを立てて自ら考え、答えを導き出す力を養うことが求められていることが語られた。

次に、「ジブンゴト化 実践編」では、JICA 地球ひろばの展示やデータ活用、フォトランゲージを通じて、社会課題を「ジブンゴト」として捉える手法が紹介された。参加者は具体的な問いの設定の仕方や、社会課題を教育現場で授業につなげる方法を学んだ。

最後に、「実践例紹介」では、JICA 海外協力隊としてベナンで小学校教育に携わった黒柳優里氏（多文化教育サポート職員）が、自身の経験をもとに、異文化適応や持続可能な社会づくりを自分事として考える重要性を話した。ベナンでの教育事例は、参加者にとって、異文化を理解しながら、視点を切り替えるきっかけとなり、教育現場での実践的なヒントが提供された。

【参加者満足度】（6名が回答）

5 とても良かった（満足）～ 1 とても悪かった（不満足）

5 とても良かった（満足）	4
4	1
3	1
2	0
1 とても悪かった（不満足）	0

【参加者感想】

- ・国際理解教育を自分事として捉えるには、適切な発問の仕方が重要だと学びました。
- ・授業例を通じて、子どもたちが「いつ・誰が・どのように」課題に取り組むのか、すぐに活用できる方法が多くあると感じました。
- ・SDGs や開発教育を授業に落とし込むうえで、まだ自分自身がジブンゴト化できていないトピックがあると気づき、「問いと答えの間を充実させる」ことで、子どもたちが未来志向で考えられるようになると実感しました。
- ・日々の業務が多い中、このような研修に参加することでモチベーションが高まり、特にベナンでの体験談が大変興味深かったです。
- ・グループワークで「自分だったらどうするか？」と考える時間があり、そのワクワク感を

子どもたちと共有することが第一歩だと感じました。

・2時間があったという間に感じるほど内容が充実しており、この学びを今後の授業や教育現場で活かしていきたいと強く思いました。

【研修の様子】

ジブンゴト化 問いの工夫

修飾語を意識して加える。

主体が誰か明確にする。「国が」「私たちクラスが」「私が」

比較したり、**前提**を変える。

対象を絞ったり、広げたりする。

時制を限定する、変える。

井澤友樹「問う力」が最強の思考ツールである』2020年



問の質の良否に各々のカードを通して適切な質問を導出してあげよう！





グループワーク

人の家へ行くと、歓迎の証で**ウェルカムドリンク**を出してくれます。**飲むのが礼儀**であり、ベナン人同士でこれを断ることはありません。皆さんだったら、どうしますか？





井戸水を飲む 生水。よく冷えたものを出してくれることが多い。虫や葉などのゴミが入っていることが多々ある。

ソーダ水を飲む パームヤシの蒸留酒50度。甘みが強くラム酒に似た味。家庭ごとに独特な香木やハーブを入れていることもある。

飲まない グループで1つ選び、意見をまとめましょう！

- ・それを選んだ理由
- ・その前後の準備や対策やフォロー など



＜第4回研修＞

【テーマ】「ジブンゴト化 学び合い編」

【日 時】2025年1月26日（日）9:00～13:00（4時間）

【方 法】JICA九州センターでの対面

【講 師】伊沢 令子 氏

特定非営利活動法人NIED・国際理解教育センター代表理事

【目 的】

- ・開発教育/国際理解教育の目的、扱う内容、参加型の進め方・手法について、体験的を通して理解を深める。
- ・社会課題を自分事として捉え、課題解決とビジョン実現に向け“人を行動に向かわせるもの”は何かを学ぶ。
- ・参加者同士多角的に知り合い、九州7県における開発教育実践者・推進者のネットワーク作りを進める。

【概 要】

特定非営利活動法人NIED・国際理解教育センターの伊沢令子氏を講師に迎え、「世界のコト・日本のコト・地域のコト～参加型・対話型・協働型の学びでヒトゴトをジブンゴトにする～」をテーマとした教員同士が学び合う研修を開催した。

本研修は、開発教育/国際理解教育の目的や内容、進め方を体験的に学ぶことを目的とし、参加型学習時にすぐにでも使えるアイスブレイクや意見交換の手法が伝えられた。また、「ジブンゴト」にするため、物事を深く「知る」ための原因追及の手法が伝達され、原因追及の中で自分とのつながりを見つけることが「気づき」となって行動のための思考が始まるとの説明を受けた。参加者は児童・生徒が世界の課題につながっている「気づき」を引き出す重要さと、深く「知る」ための児童・生徒への働きかけを学び、開発教育/国際理解教育の推進者として他の教員にも共有できる知識と手法を学んだ。また、九州7県の開発教育を実践している教員同士や各県推進員がつながり、ネットワークを構築する場ともなった。

プログラムは以下の3つのセッションで構成された。

セッション1: 参加型で学ぶ国際理解教育・開発教育の共通基盤づくり

アイスブレイクを兼ねて、日常生活でお世話になっているものを振り返りながら、自分と

他者、社会とのつながりを考え、豊かな社会に必要な要素を探究した。

セッション2: ジブンゴト化するために「知り・考え・気づく」をつなぐ

世界の貧困や環境問題について、なぜそれが問題なのか、私たちとの関係は何かを深く考えた。参加者は、模造紙や資料を使ったワークショップに積極的に取り組み、「持続可能な環境のための4原則」を通じて、望む未来の姿を描き、行動へのステップを学んだ。

セッション3: はじめよう！つながろう！つづけよう！

参加型で学ぶ開発教育をどのように継続し、広げていくかを議論し、必要なリソースや今後学びたいことを共有し合った。最後は全体で振り返りを行い、今後のアクションを確認した。

参加者からは、世界の問題や課題解決の具体的な手法を学び、国や地域を超えて他者を思いやる姿勢や教育のあり方を再認識したとの感想が寄せられた。また、授業での実践への意欲が高まり、新たなアイデアや仲間とのつながりを得られた充実した研修だったとの声も多く聞かれた。

【参加者満足度】（12名が回答）

5 とても良かった（満足）～ 1 とても悪かった（不満足）

5 とても良かった（満足）	11
4	1
3	0
2	0
1 とても悪かった（不満足）	0

【参加者感想】

- ・開発教育や貧困の循環など、これまで意識してこなかった世界の問題を学ぶ機会となりました。
- ・国際理解にとどまらず、他者を思いやる姿勢や課題解決の具体的ツールとして開発教育を活用できる点が印象的でした。
- ・世界の問題を環境と人権に大別して考える視点を得るとともに、子どもに「力を与える」のではなく「力をつける場を提供する」ことを再認識しました。
- ・「知り・考え・気づく」というプロセスを踏まえた発問や声かけの重要性を実感し、授業や国際理解教育への新たなアイデアが膨らみました。
- ・4時間があったという間に感じるほど充実した内容で、意見交換や新たな仲間とのつながりを得られ、仕事への意欲が高まりました。
- ・子どもだけでなく大人にも今回の手法を取り入れる方法を検討しながら、教育現場や地域での実践につなげていきたいと感じました。

【研修の様子】

